

ベクトル解析演習 演習問題 (3) ベクトル関数 (解答編)

担当: 金丸隆志

学籍番号:

氏名:

[問題 1] 等速直線運動

時刻 t を変数としたベクトル関数 $\mathbf{r}(t)$ が

$$\mathbf{r}(t) = \begin{pmatrix} 1+3t \\ 2+5t \\ 4+2t \end{pmatrix} \text{ で与えられるとき、} \mathbf{r}(t) \text{ の微分} \\ \mathbf{r}'(t) \text{ を求めよ。}$$

[問題 1 解答]

各成分ごとに t で微分すればよい。 $\mathbf{r}'(t) = \begin{pmatrix} 3 \\ 5 \\ 2 \end{pmatrix}$

なお、これは物理の言葉で言えば、初期位置 $\mathbf{r}(0) = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 4 \end{pmatrix}$ 、速度 $\mathbf{r}'(t) = \mathbf{v} = \begin{pmatrix} 3 \\ 5 \\ 2 \end{pmatrix}$ の等速直線運動を表す。一般に、等速直線運動はベクトルを用いて $\mathbf{r}(t) = \mathbf{r}(0) + \mathbf{v}t$ で表される。

[問題 2] 一様重力下での投げ上げ (等加速度運動)

時刻 t を変数としたベクトル関数 $\mathbf{r}(t)$ が

$$\mathbf{r}(t) = \begin{pmatrix} 1+t \\ t \\ 2t - \frac{1}{2}gt^2 \end{pmatrix} \text{ で与えられるとき、以下の問}$$

に答えよ。ただし、 g は定数のスカラー量である。(a) $\mathbf{r}(t)$ の微分 $\mathbf{r}'(t)$ を求めよ。(b) $\mathbf{r}(t)$ の二階微分 $\mathbf{r}''(t)$ を求めよ。

(c) いま、(a)、(b) で求めた二つのベクトルを $\mathbf{r}'(t) = \mathbf{v}(t)$ 、 $\mathbf{r}''(t) = \mathbf{g}$ と書くことにする (正しく計算できていれば \mathbf{g} には時間依存性はないはずである)。ここで $E = \frac{1}{2}|\mathbf{v}(t)|^2 - \mathbf{g} \cdot \mathbf{r}(t)$ を計算せよ (絶対値計算と内積計算を定義通り行うこと!)。また、この計算の結果 E は時刻 t の変化とともにどう変化するか論ぜよ。

[問題 2 解答]

定義通り計算すれば良い。

$$(a) \mathbf{r}'(t) = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 2-gt \end{pmatrix} \quad (b) \mathbf{r}''(t) = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ -g \end{pmatrix}$$

$$(c) (a)、(b) \text{ より } \mathbf{v}(t) = \mathbf{r}'(t) = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 2-gt \end{pmatrix} \text{ および}$$

$$\mathbf{g} = \mathbf{r}''(t) = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ -g \end{pmatrix} \text{ であるから、}$$

$$\begin{aligned} \frac{1}{2}|\mathbf{v}(t)|^2 &= \frac{1}{2}(1^2 + 1^2 + (2-gt)^2) \\ &= \frac{1}{2}(1+1+4-4gt+g^2t^2) \\ &= 3-2gt + \frac{1}{2}g^2t^2 \end{aligned} \quad (1)$$

$$\begin{aligned} \mathbf{g} \cdot \mathbf{r}(t) &= 0 \cdot (1+t) + 0 \cdot t - g(2t - \frac{1}{2}gt^2) \\ &= -2gt + \frac{1}{2}g^2t^2 \end{aligned} \quad (2)$$

が計算される。よって、

$$\begin{aligned} E &= \frac{1}{2}|\mathbf{v}(t)|^2 - \mathbf{g} \cdot \mathbf{r}(t) \\ &= \left(3-2gt + \frac{1}{2}g^2t^2\right) - \left(-2gt + \frac{1}{2}g^2t^2\right) \\ &= 3 \end{aligned}$$

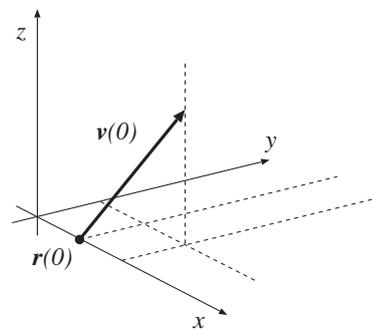
この計算結果からわかるように E は時刻 t によらず一定である。

図 1: 物体の投げ上げ

想像がつくだろうが、質量 $m = 1$ の物体を一様重力下で投げ上げた時のエネルギー保存則を表している。整理すると、初期位置 $\mathbf{r}(0) = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ にて初速度

$\mathbf{v}(0) = \mathbf{r}'(0) = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 2 \end{pmatrix}$ で物体を投げ上げた状況である (図 1)。 $E = 3$ は時刻 $t = 0$ における運動エネルギー

ギー $\frac{1}{2}|\mathbf{v}(0)|^2$ を表している。

(補足解説)

今、一様重力下における質量 m の物体の運動方程式

$$m\mathbf{r}''(t) = m\mathbf{g} \quad (3)$$

のもとで、運動エネルギーと位置エネルギーの和

$$E = \frac{1}{2}m|\mathbf{v}(t)|^2 - m\mathbf{g} \cdot \mathbf{r} \quad (4)$$

が一定であることを示しておこう。これはもちろん皆さんが既に知っている一次元での式 $E = \frac{1}{2}mv^2 + mgh$ のベクトル版である。位置エネルギーが $-m\mathbf{g} \cdot \mathbf{r}$ と mgh のように符号が異なるのは、重力加速度ベクトル

$\mathbf{g} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ -g \end{pmatrix}$ の中に負号が含まれているからである。

エネルギー E を時間で微分すると、

$$\frac{dE}{dt} = \frac{1}{2}m \frac{d|\mathbf{v}(t)|^2}{dt} - m\mathbf{g} \cdot \frac{d\mathbf{r}}{dt} \quad (5)$$

$$= \frac{1}{2}m \frac{d(\mathbf{v}(t) \cdot \mathbf{v}(t))}{dt} - m\mathbf{g} \cdot \mathbf{v}(t) \quad (6)$$

$$= m\mathbf{v}(t) \cdot \frac{d\mathbf{v}(t)}{dt} - m\mathbf{g} \cdot \mathbf{v}(t) \quad (7)$$

$$= \left(m \frac{d\mathbf{v}(t)}{dt} - m\mathbf{g} \right) \cdot \mathbf{v}(t)$$

$$= (m\mathbf{r}'' - m\mathbf{g}) \cdot \mathbf{v}(t) \quad (8)$$

(8) 式に運動方程式 (4) 式を代入すれば、 $dE/dt = 0$ が得られ、エネルギーは時間によらず一定であることが示せた。

なお、(5) 式から (6) 式では $\mathbf{a} \cdot \mathbf{a} = |\mathbf{a}|^2$ を用いて絶対値を内積計算に変換しており、(6) 式から (7) 式では $\frac{d(\mathbf{a} \cdot \mathbf{a})}{dt} = 2\mathbf{a} \cdot \frac{d\mathbf{a}}{dt}$ により内積の微分を行っていることに注意。

[問題 3] 回転運動

時刻 t を変数としたベクトル関数 $\mathbf{r}(t)$ が

$$\mathbf{r}(t) = \begin{pmatrix} 2 \cos t \\ 2 \sin t \\ 0 \end{pmatrix} \text{ であるとき、以下の問に答えよ。}$$

(a) $\mathbf{r}'(t)$ を計算せよ。

(b) $\mathbf{r}(t)$ と $\mathbf{r}'(t)$ の内積 $\mathbf{r}(t) \cdot \mathbf{r}'(t)$ を計算せよ。また、この結果は何を意味するか考察せよ。

[問題 3 解答]

定義通り計算すれば良い。

(a) $\mathbf{r}'(t) = \begin{pmatrix} -2 \sin t \\ 2 \cos t \\ 0 \end{pmatrix}$ なお、図 2 のようにこの運動は xy 平面上での半径 2 の回転運動を表している。

(b)

$$\begin{aligned} \mathbf{r}(t) \cdot \mathbf{r}'(t) &= (2 \cos t) \cdot (-2 \sin t) + (2 \sin t) \cdot (2 \cos t) + 0 \cdot 0 \\ &= -4 \cos t \sin t + 4 \sin t \cos t \\ &= 0 \end{aligned}$$

これは、位置ベクトル $\mathbf{r}(t)$ と速度ベクトル $\mathbf{r}'(t)$ が直交することを表している (図 2)。

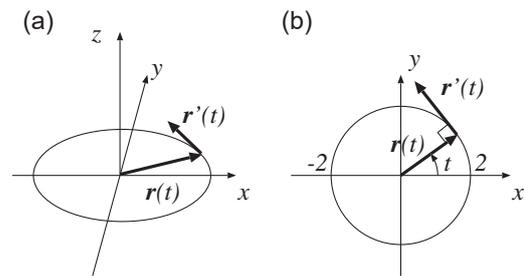


図 2: xy 平面上での回転運動